

【歴史文化学科 国語・日本史基礎学力型】

〔一〕

問1	1	2	3	4
	こんせき	波紋	つかさど	貢献
	5	6	7	8
	おお	舗装	忌避	みぞう
問2	1			
問3	野生			
問4	4			
問5	2			
問6	生活圏内の自然との接触			
問7	3			
問8	マリスは、			

〔二〕

問 1	1	2
	だんか	逸脱
問 2	立正安国論	
問 3	唐招提寺	
問 4	早良親王	
問 5	浅野長政	
問 6	方広寺	
問 7	神本仏迹説	
問 8	2	
問 9	3	
問 10	<p>6世紀に伝来した仏教は、奈良時代には国家を安定させる役割が期待され、興福寺阿修羅像などがつくられた。平安時代には天台宗・真言宗による密教、末法思想の拡大により浄土教が広まった。前者は加持祈禱による現世利益を叶えるものとして貴族層に広まるとともに、曼陀羅などの密教芸術を誕生させた。後者では極楽浄土への往生を期待して阿弥陀如来像がつけられたり、往生伝が著されるなど、浄土教が民衆の間に広がりを見せた。鎌倉時代に臨済宗が登場すると、その影響を受けて室町時代には禅宗が浸透した。禅宗の持つ「わび・さび」という概念は、慈照寺銀閣に代表される書院造や山水図などの水墨画や、枯山水庭園をうみだすなど、現代の生活に大きな影響を与えている。江戸時代には宗教統制がおこなわれたが、従来から存在した在来信仰に基づいて、伊勢神宮参詣や富士講による富士山巡り、四国八十八カ所巡礼などがみられた。また日待講や月待講などもおこなわれた。幕末には社会不安が増大するなか、天理教・黒住教・金光教など新たな民衆宗教が誕生し、人々の心をとらえた。外来宗教に関しては16世紀に伝来したキリスト教により、パン・カステラなどの文物がもたらされたほか、キリシタン版などの書物が出版された。キリスト教は豊臣秀吉・江戸幕府により禁教とされ、明治政府もその方針を継承したが、欧米諸国からの批判を受けたこともあり、1873年に黙認されるようになった。その前後からヘボンやフルベッキといった外国人宣教師が来日し、布教以外にも教育や医療・事前活動などをおこない、その影響を受けた内村鑑三や新渡戸稲造らが西洋近代思想の啓蒙などをおこなった。これらのことから、宗教や信仰は時代・社会の変化に対応しながら、人々の要求や期待に応えるものとして、普段はあまり認識することは薄いですが、常に身近なものとして存在していることがわかる。(780字)</p>	